

## 在セネガル日本国大使館月報

2026年9月

### 主な出来事

#### セネガル

##### (内政)

- 8日、ロー首相は施政方針演説を行った。国家変革アジェンダ「セネガル2050」の実現に向け解消すべき7つの構造的制約について説明。
- 29日、与党PASTEFが提出した石油法改正法案について、政府は不受理とするため憲法評議会に審査を付託。
- 29日、ECOWAS生体認証身分証明書に関する法案について、タル法制委員会委員長は同法案を委員会に差し戻すよう要求。

##### (外政)

- 13日から15日にかけて、ファイ大統領は米国を公式訪問し、世界銀行総裁と会談したほか、企業や商工会議所、ビジネス団体と面会した。

##### (経済)

- 1日、IMFとセネガル当局は拡大信用供与措置に関して実務者レベルで合意。
- 28日、TERの第2フェーズが開通し、ダカール市中心部と空港を結ぶ路線が本格的に始動。

#### カーボベルデ

- 5日、フォゴ島でバス事故が発生し25人が死亡、多数が重軽傷を負った。犠牲者の多くは10代の若者だった。
- 22日、憲法裁判所は11月15日大統領選挙の立候補者5人（ネーヴェシュ現大統領、ローザ元法務大臣、アルヴェシュ氏、アンテロ・タヴァレシュ氏、デ・ピナ氏）の5候補を正式認定したと発表。
- 24日、憲法裁判所は11月15日大統領選挙の立候補し却下されていたタヴァレシュ・デ・ソウザ氏を追加認定。候補者は6人となった。

#### ガンビア

- 7日から8日にかけて、長時間停電に対する抗議活動がバンジュール及び周辺地域で発生。
- 8日、バロウ大統領は停電について国民に声明を発表。要因の説明や政府の準備不足を認め、たうえて10月末までに電力供給を改善する方針を表明。
- 24日、ガンビア・セネガル共同国境画定委員会が、約30kmの現地作業の第1段階を完了した旨発表。

#### ギニアビサウ

- 1日、ギニアビサウ選挙管理委員会は8月30日に実施された憲法改正案に関する国民投票の暫定結果を発表、賛成多数で可決された（賛成66.9%、反対28.1%）。
- 9日、新党PPG（国民党、Partido Popular Guineense）が結成された。16日、ヴィエイラ・テ暫定首相は同党の党首であることを認めた。

- 14日、軍最高司令部は、国家機関、病院、外交使節団、軍・準軍事組織から500km以内にある政党本部は移転すべきとの決議を採択し、7営業日以内の移転を要求。
- 23日、政党本部の移転をめぐり、大統領府の目の前にあるPAIGC党に警察が突入し、建物が国に接收された。
- 27日、エンバロ前大統領は10月4日にギニアビサウへ帰国する旨発表。

## **セネガル**

（出典は Le Soleil 紙、RFI、大統領府 HP、セネガル外務省 HP、APS、Jeune Afrique、ロイター、Sika Finance。）

### **（内政）**

#### **内政一般**

- 1日、第2回臨時国会が開会。
- 5日、物価高に対するデモが開催された。
- 5日、ファイ大統領はダカール・ユースオリンピックを国民的な成功に導くことを目的とした全国キャンペーン「ドゥンダル・ユースオリンピック」を開始。
- 8日、ロー首相は施政方針演説を行った。国家変革アジェンダ「セネガル2050」の実現に向け解消すべき7つの構造的制約について説明。
- 29日、ファイ大統領はセネガル青年諮問委員会の公式発足式に参加。
- 29日、与党PASTEFが提出した石油法改正法案について、政府は不受理とするため憲法評議会に審査を付託。
- 29日、ECOWAS生体認証身分証明書に関する法案について、タル法制委員会委員長は同法案を委員会に差し戻すよう要求。

### **（外政）**

#### **二国間・多国間関係**

- 4日、ファイ大統領はターニー・アル・ゼユーディ・アラブ首長国連邦外国貿易大臣と会談し、エネルギー、鉱業、港湾インフラ等の分野の協力関係強化について意見交換した。
- 11日、ファイ大統領はサラゴス・フランス・メディア・モンド代表と会談。
- 13日から15日にかけて、ファイ大統領は米国を公式訪問し、世界銀行総裁と会談したほか、企業や商工会議所、ビジネス団体と面会。
- 16日、ファイ大統領はアラブ首長国連邦を訪問し、ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン大統領と会談。
- 17日、ファイ大統領はモーリタニアを訪問しガズワニ大統領と会談を行ったほか、アブダッラー・ビン・バイヤ・アブダビ平和フォーラムおよびアフリカ平和促進会議会長を訪問。
- 16日から18日にかけて、ダカールにてAIの規制をテーマとしたワークショップが開催され、セネガル、ベナン、ブルキナファソ、コートジボワールの国会議員が参加。
- 19日、セネガル外務省はフーシ派によるサウジアラビアの攻撃について非難する旨の声明を発表。
- 21日からファイ大統領およびニャン外相はアメリカ・ニューヨークにて第81回国連総会に出席。
- 24日、ファイ大統領は国連総会で一般討論演説を行った。

- 24日から中国海軍の病院船がダカール港に停泊。30日には艦上レセプションを開催。
- 26日、ニャン外相はセネガル政府とネパール政府の外交関係樹立に関する共同コミュニケに署名。

## (経済)

### 経済一般

- 1日、IMFとセネガル当局は拡大信用供与措置に関して実務者レベルで合意。
- 4日、S & Pはセネガルの格付けをCCC+からCCに引き下げた。
- 8日、ファイ大統領は、ダカール自治港第4ふ頭の近代化を目的とするプロジェクト「ジャンバル港湾プロジェクト」の主要投資家であるブリオン氏と面会。
- 2026年度補正予算法案(PLFR)は、エネルギー補助金(7,903億 FCFA(約12億ユーロ))の増加、税収の減少、および優先支出の増加により、当初予想の5.4%から、財政赤字はGDP比7.6%に上方修正された。
- 24日、100台の電気自動車タクシーが引き渡された。陸上交通開発基金(FDIT)と商工銀行(BCI)が主導し、特に国家職業訓練局(ONFP)の支援を受けて実施される資金調達プログラムであり、2027年までに1,000台の車両導入を目指す。
- 28日、TERの第2フェーズが開通し、ダカール市中心部と空港を結ぶ路線が本格的に始動。

## (社会)

- 9月中旬から下旬にかけて、セネガル国内において停電が相次いだ。電力需要が想定を超える中、発電所等の故障が重なり、電力供給が不足したことが主な原因。

## (文化・スポーツ)

- 12日、オリンピックの聖火到着に伴う式典を開催。
- 29日、サッカーのアフリカネイションズカップ予選のエチオピア戦にて、ヴィエイラ監督はセネガルの代表監督就任後、初勝利を挙げた。

## カーボベルデ

(出典は Balai、Expresso das ilhas、カーボベルデ政府、A Nação、Voz do archipelago。)

- 2日から15日にかけて、カーボベルデ港湾当局が厦門(中国)で「ブルーエコノミーと沿岸持続可能開発」セミナーに参加。
- 4日、カーボベルデ・ブラジルフォーラムが開催され、投資・雇用創出での協力や航空・農業・デジタル分野等での連携強化について議論。
- 5日、フォゴ島でバス事故が発生し25人が死亡、多数が重軽傷を負った。犠牲者の多くは10代の若者だった。
- 6日、政府はバス事故犠牲者を悼み、2日間の国喪を宣言。
- 6日、最大野党MpD党首選が実施された。
- 7日、リマ・アマンテ・ダ・ローザ外相がヤン中国大使と会談。
- 14日、ネーヴェシュ大統領が11月15日大統領選挙への再選出馬を表明。同時に法に基づき大統領職を即時停止し、オブファール・アルマダ国民議会議長が大統領代行を務める旨発表。
- 15日、PAICVが大統領選挙のネーヴェシュ候補の支持を表明。
- 14日、MpD党首選の暫定結果が発表され、ヴェイガ氏が圧倒的多数で勝利が確実となり、同氏は新

党首就任を宣言。

- 16日、大統領選挙への立候補が締め切られた。
- 17日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相がフレンツ・ルクセンブルク大使と初会談。
- 17日、ヴェイガMpD新党首が11月15日大統領選でローザ候補（元法務大臣）への支持継続を表明。
- 17日、政府は大統領選期間の中立義務に基づき、公共行事等の制限を発表。
- 18日から29日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相及びリマ・アマンテ・ダ・ローザ外務・共同体・国防大臣がニューヨークで国連ハイレベル会合・国連総会に出席。
- 22日、憲法裁判所は11月15日大統領選挙の立候補者5人（ネーヴェシュ現大統領、ローザ元法務大臣、アルヴェシュ氏、アンテロ・タヴァレシュ氏、デ・ピナ氏）の5候補を正式認定したと発表。
- 23日、政府は新内閣発足に伴い首相府組織再編を決定し、副首相・青年スポーツ担当相・首相補佐官の事務局を廃止。
- 24日、憲法裁判所は11月15日大統領選挙の立候補し却下されていたタヴァレシュ・デ・ソウザ氏を追加認定。候補者は6人となった。
- 25日、熱帯低気圧「ゴンザロ」の影響により、サル島観光地サンタ・マリア地区で複数の浸水被害が発生。
- 26日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相は国連総会で一般討論演説を行った。

## ガンビア

（出典はガンビア政府 HP、The Point、The Standard。）

- 2日及び3日、バロウ大統領はギニアを訪問し、ドゥンブヤ・ギニア大統領と会談を実施。
- 4日、大手通信キャリアの「Africell Gambia」は、公益事業規制当局の主導する「携帯電話番号の9桁への移行計画」に基づき、システム移行を開始。
- 7日から8日にかけて、長時間停電に対する抗議活動がバンジュール及び周辺地域で発生。
- 8日、バロウ大統領は停電について国民に声明を発表。要因の説明や政府の準備不足を認め、10月末までに電力供給を改善する方針を表明。
- 7日、ンジャイ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣はカマウ国連世界食糧計画（WFP）新代表から信任状を受け、教育や脆弱層支援分野での協力強化を確認。
- 8日、ンジャイ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣は初の元大使・退職上級外交官会合を開催。
- 11日、選挙管理委員会（IEC）は2026年大統領選の立候補要件（ガンビア国籍・30歳以上・中等教育修了・5,000人以上の登録有権者からの推薦・資産申告及び納税証明・100万ダラシの保証金等）を公表。
- 15日、バロウ大統領はジョップECOWAS委員会委員長の訪問を受け会談。
- 16日、ハケット特別検察官がサール・セネガル司法大臣と会談し、両国の司法協力や経験交流強化について意見交換。
- 18日から29日、ジャロウ副大統領及びンジャイ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣が国連ハイレベル会合・国連総会に出席。
- 21日、ガンビア政府は2026年前半の財政赤字が6,886万ダラシに達したと発表、主因は国内債

務の返済負担の増加と説明。

- 24日、ジャロウ副大統領は国連総会一般討論演説を行った。
- 23日、国家行政学院(ENA)は2026年の公務員給与総額が月額51億CFAフラン超に達した旨発表。
- 24日、ガンビア・セネガル共同国境画定委員会が、約30kmの現地作業の第1段階を完了した旨発表。
- 26日、バロウ大統領はガンビア各地のイスラム指導者らを大統領官邸に迎え面会。
- 30日、ジャロウ副大統領が「2026－2035年国家早期警戒・対応政策」を正式に発足。

## **ギニアビサウ**

(出典はギニアビサウ外務省、ECOWAS、Jeune Afrique、Radio Capital FM、O Democrataほか。)

- 1日、ギニアビサウ選挙管理委員会は8月30日に実施された憲法改正案に関する国民投票の暫定結果を発表、賛成多数で可決された(賛成66.9%、反対28.1%)。
- 7日から12日、ギニアビサウ政府代表団がモロッコで経済プロモーション週間に参加し、モロッコとの具体的投資・協力案件を協議。
- 9日、新党PPG(国民党、Partido Populaire Guinéen)が結成された。16日、ヴィエイラ・テ暫定首相は同党の党首であることを認めた。
- 9日、ジャウ外務・国際協力・共同体大臣が、エチオピアで「後発開発途上国(LDC)のためのドーハ行動計画」アフリカ地域閣僚級中間レビュー会合に出席。
- 10日、ギニアビサウとネパールが外交関係を樹立。
- 14日、軍最高司令部は、国家機関、病院、外交使節団、軍・準軍事組織から500km以内にある政党本部は移転すべきとの決議を採択し、7営業日以内の移転を要求。
- 15日、政府は駐カーボベルデ・ギニアビサウ大使公邸で発生した破壊行為・侵入未遂に関し、在カーボベルデ・ギニアビサウ人の保護のため現地当局と連携している旨声明を発表。
- 18日から29日、ヴィエイラ・テ首相及びジャウ外務・国際協力・共同体大臣が国連ハイレベル会合・国連総会に出席。
- 21日、産業企業開発財団とユニオンバンクは若者・女性起業家向け最大21.17億CFAフランの資金供給に関する協定を締結。
- 23日、政党本部の移転をめぐり、大統領府の目の前にあるPAIGC党に警察が突入し、建物が国に接収された。
- 27日、エンバロ前大統領は10月4日にギニアビサウへ帰国する旨発表。
- 29日、ペレイラ氏が大統領選挙への出馬を検討している旨発表。

(注) 本報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)